

平井まち子



「元気・神戸」「元気・長田」へ
恐れず、先送りなし!



<http://www.55machiko.jp> 平井まち子 検索

■平成26年 2月定例会

●2014年2月19日～3月28日

平成26年2月定例会は、平成26年度当初予算や議員提案による「神戸市がん対策基本条例」等を可決し閉会しました。平井は行財政局審査、こども家庭局審査、総括質疑に登壇しました。

神戸市会ホームページ ▶ <http://www.city.kobe.lg.jp/sikai/>
市会情報、議事録の閲覧ができます。

久元市長が初めて提案する 2014年度当初予算案は、「予算のシーリングを撤廃、各局からの大胆な予算要求を」「事業をやめる勇気ももってもらいたい」との思いが十分に反映されたかについては疑問の面もあるものの、「輝ける未来想像都市の実現に向けて」との攻めの姿勢が感じられる予算編成となりました。



予算審査をしめくる総括質疑に 平井まち子が会派を代表し 登壇しました。

自由民主党神戸市会議員団の総括質疑 (要旨)

三宮周辺の再整備

問 3月から検討委員会を立ち上げて三宮周辺再整備のビジョンづくりをするということだが、市民の関心の高い兵庫の顔の大改造という重大事案に幅広い市民の想いを反映するために、検討委員会に議会の代表も参画すべきではないか。

答 (久元市長)三宮の再開発を含む都心の再生は、神戸の将来を決める大変大きな取り組みだ。この検討委員会は決定機関でもなく、プランをまとめるのは行政、私の責任である。市民のたくさんの意見を聞きながらまとめていきたい。この検討会の進め方についていろいろと意見を頂いたので、検討過程についても例えば関係の委員会などでしっかりと説明をし、また意見をいただきながら進めたい。

あり方検討会など第三者委員会のあり方

問 「中学校給食のあり方検討会」をはじめ、第三者委員会による意見をそのまま市の方針としている例が多く、市当局の政策決定への主体性、積極性が後退している。教育委員会からは中学校給食への理念を聴かれない。こうした政策決定手法を見直すべきではないか。

答 (久元市長)とかく外部の検討委員会などに検討をお願いし、それを鵜呑みにするといった政策形成の傾向は変えなければならない。ただし検討経過として問題はあっても内容は私なりによく吟味・理解した上で、予算と議案を提出している。一方でもう少し主体的にデータや検討を積み上げ、しっかりと市役所の中で議論し、自信を持って、対外的に説明していくのが本来のあり方と思う。

医療産業都市の残された課題

問 265社が集まり、1000億円の経済効果がでているが、「海外投資の呼び込み」「地元中小企業への経済効果」という構想は達成されていない。国家戦略特区の規制緩和では海外とのクラスターとの競争は厳しいなど課題があるが、明確な目標を示していくべきではないか。

答 (久元市長)iPS細胞による世界初の臨床研究の開始、高度専門医療機関の集積、スーパーコンピューター「京」の共用などステージが進んでおり、「ライフサイエンス振興ビジョン」を改定し、実効性をもって進みたい。同時に国家戦略特区の指定は大きな弾みになると考える。税制上の特例を、一歩でも二歩でも実現に近づこう模索したい。

神戸ビエンナーレの検証

問 4回の開催を数えた神戸ビエンナーレだが、あまり高い評価を得ているとはいえない。組織委員会内での検証だけでは基本方針などを改革することができないため、検証方法も見直すべきではないか。

答 (久元市長)過去4回の開催結果も踏まえた新たな検証も必要と考えている。そこで今回は委員による評価に加え、外部の評論家の意見なども聞きながら検証・評価をしているところである。

高校受験における調査票の記入ミス

問 高校入試の調査書への誤記入が発覚した。パソコン上の原簿からコピー＆ペーストの作業でのミスとのことだが、効率的なシステム構築をすべきではないか。またこれまで生徒が被害を受けるミスがあっても学校内部のみで処理し、改善策をとってこなかった体質がそもそも問題ではないか。

答 (雪村教育長)校務支援システムの導入により作業の効率化を進めるが、何よりも組織的なチェック体制の見直しと教員の意識改革が重要である。改めて再発防止に向け校長会等で指導を徹底する予定である。